

イマズスルフロン・プロモブチド・
ペントキサゾン水和剤

農林水産省登録 第21831号
性 状：類白色水和性粘稠懸濁液体
毒 性：普通物
危 険 物：—
有効年限：4 年
包 装：500 ml×20、2 l×6

ヨシキタ®フロアブル

有効成分：イマズスルフロン…………… 1.7% プロモブチド……………16.3%
ペントキサゾン…………… 7.0%



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報がご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用雑草名	使用時期*	適用土壌	10アール 当り 使用量	総使用回数*	適用地帯	使用方法
移植 水 稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、東北) クログワイ (東北、関東・東 山・東海、近畿・ 中国・四国、九 州) オモダカ (東北、関東・東 山・東海) コウキヤガラ (東北、関東・東 山・東海、近畿・ 中国・四国、九 州) ヒルムシロ セリ アオミドロ・ 藻類による 表層はく離	移植時	砂壤土 ～ 埴土	500 ml	本 剤：1回 イマズスルフロン：2回 プロモブチド：2回 ペントキサゾン：2回	全域の 普通期及び 早期栽培地帯	田植 同時 散布 機で 施用
	移植直後～ ノビエ 1.5葉期 ただし、 移植後30日 まで	原液 湛水 散布					

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用前に容器を軽く振る。
- 主要雑草に対する散布適期幅

ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ コウキヤガラ	発生始期まで 発生始期まで 発生始期まで 発生始期まで 発生始期まで 発生始期まで	オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	発生始期まで 発生期まで 再生前から再生始期まで 発生前
---	--	---	---------------------------------------

○本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの1.5葉期までに、時期を失しないように散布する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにする。

- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）で、まきむらが生じないように均一に散布する。また、極端な浅水や深水での使用はさける。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。また、入水は静かにおこなう。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなう。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなう。
- 以下のような条件下では葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。
 - 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深が2cm/日以上）。
 - 軟弱な苗を移植した水田。
 - 極端な浅植えの水田。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。
- 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないで、有効な後処理剤との組み合わせで使用。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しない。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分に注意する。
- いぐさ栽培予定水田では使用しない。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管する。

【品目特性】

- イマゾスルフロンに、ノビエに対し高い効果を示すペントキサゾンと、ホタルイなどのカヤツリグサ科雑草に安定した効果を示すプロモブチドを混合した初期一発処理除草剤です。
- SU抵抗性雑草にも効果
ホタルイ、コナギ、アゼナ等のSU抵抗性雑草にも効果を示します。
- 長い残効性
ノビエなどに残効期間が長く、通常の使用条件下で40～50日程度の抑草期間があります。特にノビエの後次発生が問題となる地域（寒地・寒冷地など）においても効果が持続します。
- 田植直後（田植同時）から使用できる。
通常条件下では水稲に対する安全性が高いため田植直後から使用できます。そのため田植同時散布機（「滴下マン」など）を使用した省力的な散布方法である「田植同時散布」も可能です。
- 広範囲の雑草に対して高い除草効果
ノビエをはじめとする水田一年生雑草からマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリなどの多年生雑草に高い除草効果を示します。また、アオミドロ、藻類による表層はく離にも効果が認められます。